

令和6年度 江戸川区立上一色中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学ぶ生徒</li> <li>心身を鍛える生徒</li> <li>社会をつくる生徒</li> </ul>	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者、地域と連携し、信頼され豊かな教育活動を展開する学校</li> <li>自律し、国家・社会の一員としての自覚と貢献する気持ちをもった生徒</li> <li>熱意をもって職務に専念し、確実な学力に向け豊かな教育活動を展開する教師</li> </ul>
前年度までの本校の現状	成果 ①学力向上に向け、ICT機器を利用し、対話的な授業への取組が増加した。 ②道徳教育については、議論・対話する特別な教科 道徳の授業が定着してきた。	課題 ①学力向上に向けての取組の充実を目指す。 ②特別支援教育の充実を目指す。 ③読書科でICTや学校図書館の活用による探究学習の充実を目指す。	

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、単元テスト・家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・研究授業、協議会での主体的・対話的で深い学びの研修を行う。	・生徒が、授業アンケートで授業がわかる、達成感の感じられるという肯定的な回答を8割以上得る。	B		A	全教科の授業アンケートで、わかる、達成感を感じるという肯定的な回答が8割以上であった。	A	先生がただか一生懸命に授業を行っている。					
		・放課後補習授業を計画的に実施し、数学・英語の基礎力の向上を図る。	・補習授業を行う数学・英語のBC層の割合を向上する。	B		B	放課後補習学習は曜日によって参加者生徒数の偏りがある。	B	放課後補習授業をもっと活用してほしい。					
	○読書科の更なる充実	・読書科の成果物作成と、計画的な読書科の取組を行う。探究的な学習の良さを理解させ、問題を解決して心ざわしい発表を経験させる。	・3年生は卒業研究を完成させ、1・2年生は学校図書館での調べ学習を2回以上実施する。	B		B	修学旅行、林間学校の事前学習や卒業研究の事前学習で学校図書館を1回以上使用した。	B	学校の図書館だけではなく、ipadでも本を読めるようにしてほしい。					
体力の向上	○運動意欲の向上や健康の推進に向けた取組の実施・改善・充実	・体育授業前の上中トレーニング（5分）を実施する。	・体育授業前の上中トレーニングを毎時間実施する。	B		B	体育の授業前に月ごとに決めたトレーニングを計画的に実施した。	A	体育の授業だけではなく、部活動も活発に行っている。					
		・運動が楽しいと思えるように、レクリエーション的な取り組みを行う。	・レクリエーション活動を学期に1回以上行う。	B		A	体育の授業内容に合わせて、単元ごとにレクリエーション的な活動を取り入れた。	A	楽しい取り組みを行ってくれている。					
実現に向けた教育の推進 共生社会の推進	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・教室の整理整頓、配布プリントや投影画像の文字のUD化を行う。	・各学期2回の教室の整理整頓、掲示物チェックを実施する。	B		B	教室内の掲示物や整理整頓を定期的に行った。	A	教室がきれいに整ってあった。					
	○エンカレッジルームの活用促進	・エンカレッジルームの活用、ステップサポーターを活用し、毎日支援できる体制を整える。	・エンカレッジルームの柔軟な活用を行い、毎日の支援体制を実施する。	B		A	エンカレッジルームを整え、生徒が過ごしやすい環境整備を行った。	B	不登校生徒が多くなるようにしてほしい。					
	○副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・副籍では、直接交流や間接交流を行い、共生社会の理解を深める。	・副籍交流では、鹿本学園との関りを通して、年間3回以上の交流を実施する。	B		A	副籍交流として、鹿本学園と直接交流、関節交流を行った。	A	素晴らしい交流を行っていると思う。					

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己(学校)評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己(学校)評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
不登校・いじめ対応の充実	○いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実	・学校生活全体でいじめの未然防止。個に応じた対応を行う。いじめ防止基本法に基づき職員全体で共通理解を図る。	・アンケートを各学期実施していじめの早期発見・事前防止に取り組む。組織的解決を目指す。	B		A	生徒から、いじめアンケートを実施した。組織的にいじめの事前防止に取り組んだ。	A	いじめがない学校づくりを行ってほしい。					
	○不登校対策の実施・充実させ、教育相談の強化	・特別支援コーディネーターや特別支援教室専門員が中心に情報共有や共通理解を図り、全校体制で組織的な対応ができるように整える。	・特別支援校内委員会を2か月に1回以上行い、組織的に対応ができるように、支援体制を実施する。	B		B	特別支援校内委員会を定期的に開催することができた。	B	学校全体で取り組んでほしい。					
	○hyper-QUの活用	・1・2学期に1度ずつhyper-QUを全学年で実施する。	・ハイパーQUを年2回行い、学級や学年で活用する。また、hyper-QU研修会を行い、教員の知識活用を深める。	B		A	ハイパーQUを1学期に1回行った。その結果を踏まえ、研修会を行い、活用する知識を学んだ。	B	活用できるように研修を行ってほしい。					
学校(園)開かれた地域社会の実現	○学校(園)ホームページの充実し、学校(園)公開の実施・充実	・地域、家庭に定期的にHPやtetoruで通知する。	・HPの更新は、学年や分掌のHP担当者が週1回以上行う。	B		A	週に1回以上、HPの更新を行うことができ、地域や家庭に学校の様子を通知した。	B	デジタルだけではなく、紙も活用してほしい。					
	○教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校評議員会で地域から見た学校の意見を集約・確認し、充実・改善に取り組む。	・学校評議員会で年2回アンケートを行う。	B		B	学校評議員会でアンケートを行い、意見や要望を確認した。	A	アンケートにも要望や意見を記入した。					
	○保護者との信頼関係の構築	・三者面談で三者が納得できる面談の実施を年2回行う。	・学校生活について保護者アンケートで肯定的な回答を8割以上得る。	B		A	三者面談では、学校の様子だけではなく、家庭の様子や生徒間の人間関係などを確認した。	A	生徒の話をよく聞いてくれてありがたい。					
教育の特色ある展開	○「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・校務分掌の見直しを図り、仕事内容の精選を行う。定時退勤を促し、在校時間を見直す。	・校務分掌の見直し仕事の精選を行い、教員の平均在校時間を前年度よりも10分減らす。	B		A	昨年度と比べ、在校平均時間が10分以上短くなってきている。	A	ON、OFFの切替ができる働き方をしてほしい。					
	○「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・「小中連携教育構想」に基づく取組の実施。	児童の授業体験、部活動交流を年2回実施する。	B		A	小中連携を行い、授業体験・部活動体験を行った。	A	小学校との交流を進めてほしい。					
	○自分の考えをもち議論する道徳授業、いじめ防止基本法に基づく授業を実施	・道徳授業の研究授業を各学年、年1回取り組む。	・「いじめ防止」に向けた授業を各学期1回ずつ実施する。	B		B	特別の教科道徳で「いじめ防止」に向けた授業を行った。	B	道徳の授業の充実を図ってほしい。					